



教員・学生の双方向授業

学生の授業への積極的な参加が求められる今、教員と学生の双方向コミュニケーションを可能にする授業支援ツールであるオーディエンス・レスポンスシステム（通称“クリッカー”）を活用した授業を本学部総合医学教育センターの教員を中心に行っている。その授業を聴講した。



クリッカーの使用方法

- ① 学生は、1人一枚レスポンスカードを持つ
- ② 教員は、学生に理解してもらいたい内容を質問する
- ③ 学生は、その質問に対して正解だと思う番号を押す
- ④ 集計結果が瞬時にスクリーンに表示される
- ⑤ 質問に関連する授業を行い、質問に対する正解を理解してもらう
- ⑥ ①と同レベルの質問をして学生の理解度を確認する

一方的に教員の話聞くだけでなく、自分が正解だと思った答えを教員へむけて発信する。クリッカーの使用により匿名性が担保されるため、学生は素直な答えを示すことができる、学生参加型の双方向授業である。

クリッカーを使用しての授業だったからか、学生は集中して授業に参加しているように感じた。



学生のアンケート結果

- クリッカーを介して主体的に授業に参加できる
- クリッカーを使用することで授業が楽しくなる
- クリッカーを使用することが眠気防止になる
- 授業にめりはりを感じて理解しやすい
- 間違いを恐れずに回答可能
- 学習意欲が向上
- 自己学習の意欲につながる
- 集中して授業に取り組むことができる

米子の街の… お地蔵さん！



咲い地蔵



天神橋地蔵



つなぎ地蔵

米子キャンパスから歩いて5分の加茂川付近には、お地蔵さんが何ヶ所も祀ってある。一昨年、医学部附属病院が舞台となったNHKドラマ「ちょっとはダラズに。」の中で登場した場所でもある。

たくさん祀ってあるお地蔵さんの中でも笑い人生祈願の「咲い地蔵」（わらいじぞう）に会いに行ってきた。「咲い」という字は、古事記によると、「笑い」の古語だそう。「咲い地蔵」は、「念じれば花開く」の思いが込められており、花が咲くように人々の願いを叶え、笑いをもたらすという。穏やかな顔をちょっと傾けたお地蔵さん。きっと、みんなに笑顔を届けてくれるはず…！

医学部での研究！

保健学科 病態検査学講座

保健学科 病態検査学講座は、生理、分析化学、病理、細菌学系の臨床研究を行っている。その中でも生理系の分野の研究について話を聞いてみた。

胃がんの検査でよく使われる胃カメラの場合、患者さんは少なからず苦痛を訴える。しかし、超音波検査の場合、苦痛を伴わず、右図のように胃の中が3次元ではっきりと映る。患者さんにとってやさしい検査である。

同講座の別の研究室では、神経系の働きについての研究も行っており、手の神経を電気により刺激し、筋肉が受け取る電気信号を波形でとらえることで、神経の異常などの様々な情報を得ることができる。また、頭に貼った電極から脳の電気活動を測定し、発達障害などの診断への有用性を研究している。

このように病態検査学講座では、心電図・脳波・超音波画像などの幅広い検査の研究を進めている。



手に刺激を与える場面

脳波検査の電極の取り付け

マカロニ



超音波による胃の中にあるマカロニの画像

学内の花



アレスコ棟正門をくぐると、色とりどりの花が私達を迎えてくれる。

5月16日(土)、花の植え替えをすと聞いて、取材に出かけた。霧雨の中、集まったのは保健学科を中心とした学生と教職員のボランティアの『アレスコ・ガーデニングクラブ』約30人。毎年2回春と秋に、植え替えを行っているとのこと。花が鮮やかに咲いてくれているのは、ボランティアの方々のおかげ。

アレスコ棟付近を通る際には、ぜひ、ご覧ください！

大学入門ゼミ (生命科学科)

5月9日(土)、生命科学科1年生を対象とした大学入門ゼミを開催した。

当日は、大学院生を含む学科2年生以上の学生と教員が新1年生を講義室で出迎え、各分野ごとに説明をし、新入生が1人一言ずつ(30秒!)、出身地や興味のある研究について自己紹介を行った。

次いで、極めて顕著な業績を挙げた学科卒業生を対象に昨年度から設けられた生命科学科特別賞と奨励賞の授与式を行い、特別賞を受賞した奈良先端科学技術大学院大学の河合太郎准教授に講演をしていただいた。その夜は、生命科学科の学部学生・大学院生と教員のほぼ全員が一堂に会し、総勢200名を越える夕食・懇親会となった。



生命科学科長による挨拶



生命科学科全学生の前で自己紹介をする1年生

九州・沖縄フェア (6月限定)



アジアンフェア (7月限定)



生協食堂

新年度に入り、ここで見かける学生や教職員の顔ぶれも替わった生協食堂では、利用者が飽きないよう、毎月、毎週、メニューを替えて提供しているのだそう。取材に出かけた時、6月限定の“九州★沖縄フェア”を開催していた。その中で店長おすすめメニューの1つだったのが『シリリアンライス』(左図)。次回、7月のフェアは年間一番人気のアジアンフェア！

生協食堂は、8月上旬から約3ヶ月間、改装工事のため閉店する。10月には装いも新たに、私達を迎えてくれることを楽しみに待ってよう。



6月限定の『シリリアンライス』

編集後記

創刊号に掲載した米子城跡。サクラが満開になった4月初旬、昼休憩を利用して、職員5人で登頂。城山最高です！



発行/鳥取大学医学部(総務課広報係)
〒683-8503 鳥取県米子市西町 86
TEL: 0859-38-7037
FAX: 0859-38-7029
E-Mail: me-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp